

◇丹後大学駅伝 第81回関西学生対校駅伝競走大会◇

2019年11月16日(土) 丹後地方コース(京丹後市～宮津市) 8区間 84.1Km

【総合順位】

順位	大学名	記録	順位	大学名	9
1	立命館大	4°08'20"	12	大阪体育大	4°31'24"
2	関西学院大	4°18'33"	13	大阪学院大	4°32'11"
3	京都産業大	4°18'44"	14	神戸大	4°33'08"
4	大阪経済大	4°19'22"	15	同志社大	4°34'28"
5	びわこ学院大	4°22'03"	16	甲南大	4°36'17"
6	京都大	4°22'36"	17	兵庫県立大	4°37'36"
7	関西大	4°22'47"	18	大阪教育大	4°42'59"
8	龍谷大	4°23'11"	19	神戸学院大	4°44'14"
9	佛教大	4°28'26"	20	和歌山大	4°44'44"
10	大阪大	4°29'06"	21	大阪市立大	4°44'50"
11	近畿大	4°29'25"	22	京都教育大	4°51'32"

【区間成績】

区間	距離	氏名(学年)	通過記録	順位	区間記録	順位
1区	9.0km	藤田俊也(M2)	28'18"	17	28'18"	17
2区	7.7km	矢田絢介(3)	55'07"	16	26'49"	14
3区	7.0km	田上雄士(2)	1°17'45"	19	22'38"	21
4区	9.8km	根本夏生(4)	1°50'56"	18	33'11"	18
5区	12.3km	佐久間啓(4)	2°29'47"	17	38'51"	11
6区	13.3km	若江亮平(2)	3°13'27"	16	43'40"	16
7区	13.3km	松井悠真(3)	3°55'55"	14	42'28"	11
8区	11.7km	平井大誠(4)	4°33'08"	14	37'13"	9
総合	84.1Km	神戸大学	4°33'08"	14	-	-

優勝した立命館大学は8区間中7区間で区間新記録を樹立し、昨年自校が樹立した4°16'00"の大会記録を大幅に更新した。

丹後駅伝を振り返って

駅伝主将：矢田 絢介

駅伝主将としてチームを引っ張ってきましたが、力及ばずでした。とても悔しいです。それでも、この駅伝を通してまたチームは成長できたと思います。ここから、関西ICで長距離パートが活躍できるようあと半年間、仕事を全うしたいです。朝早くから応援やサポート等、ありがとうございました。



【上段 左から】 三宅 荒堀 佐久間 平井 根本 宮本 岡田
 【下段 左から】 岩佐 田上 山本 松井 矢田 若江 細見

～ 選手より ～

1区:藤田 俊也(M2)

1区を走りました藤田です。実力通りのレースはできたと思いますが、ハイペースに全く対応できなかったことが非常に悔しいです。5000m14分台の走力がないと戦えない区間であると痛感しました。チームとしても残念な結果でしたが、良い点もあったので、来年以降それを活かしてシード権獲得を実現してほしいです。応援ありがとうございました。



2区:矢田 絢介(3)

チームのみんなのことを想うと、激坂でも粘りのある走りことができました。走らせていただいたことに感謝しています。ありがとうございました。



4区:根本 夏生(4)

2年連続4区を走らせていただきました。例年になく風も穏やかなコンディションでしたが、去年よりタイムを落としてしまい、流れを変えることができませんでした。最後の駅伝に調子を合わせられずとても悔しい気持ちです。朝早くからOB様をはじめとする多くの方々の応援ありがとうございました。来年以降も強いメンバーが残りますので、期待して応援していただきたいです。



5区:佐久間 啓(4)

5区を走るのは3回目だったため、落ち着いて臨むことができました。大学の試験等があった中で、区間順位は昨年より下がってしまったものの、これまでよりも速いタイムを出せたことは正直驚いています。応援サポート等ありがとうございました。



3区:田上 雄士(2)

自分の実力不足で、周りの選手に食らいつく走りができませんでした。大事な場面で活躍できる選手になるため、走力面と精神面でもう一度鍛え直します。応援ありがとうございました。

6区:若江 亮平 (2)

序盤から単独走となり厳しい展開でしたが、応援のおかげで気持ちを切らさずに走りきることができました。本当にありがとうございました。今回の結果は満足できるものではありませんが今の実力通りだと思います。来年までに他大のエースと戦える力をつけま



8区:平井 大誠(4)

8区を走りました平井です。上位5チーム以外の繰り上げスタートでしたが、最初から冷静に自分のペースで走りきれました。区間順位も1桁を獲得でき個人としては満足です。チームとしては悔しい結果になりました。大学院進学予定のため来年リベンジできるよう頑張ります。応援していただいたOB、OGの皆様ありがとうございました。



7区:松井 悠真(3)

周りとのレベルの差を痛感しました。現状を理解してまたここから頑張ります。応援ありがとうございました。



ご声援ありがとうございました!

加藤善典(新17) 椎木茂久(新17) 依田泰吉(新17)
平田明男(新18) 絹田清昭(新21) 森島茂夫(新27)
山本達男(新30) 坂元亮介(新66) 成瀬 亮(新66)
桂 翔太(新67)



2019年 丹後駅伝観戦記

新21回 絹田清昭(記)

11月15日(金)、晩秋の色濃い舞鶴自動車道で丹波路を疾走し豊岡道を降りると兵庫県北部地方、但馬だ。円山川の堤防を北上し豊岡を越すと直ぐ城崎温泉。神戸から2時間半、近くなったものだ。今年の神大の応援団の城崎温泉宿泊組は、加藤、椎木、依田の17回生を中心に、平田(18)、絹田(21)、山本(30)を加えて6人、これに早朝城崎到着の森島(27)と加え、おっさんは7名。他に3人の若手を加えても10人とチト寂しい。山本さんが毎年おっさん連中の世話をしてくれるので、安心してカニを食い氣勢を上げられるというものだ。駅伝観戦記は初めてだが単にレースだけを振り返るのではなくいろいろな角度から見て行きたい。

関西学生駅伝もこのところ丹後半島で落ち着いてやれているのはありがたい。西京極を起点として9号線を走った50年前とは比べるべくもないが、その後の淀川河川敷を往復させられた屈辱の時代に比べれば、まだ駅伝らしいとは言えるし、丹後地方の活性化にも多少なりとも貢献しているなら喜ばしいことだ。スタートは京丹後市、ゴールは天橋立のある宮津市。天橋立の中を走り抜けてゴールというのも粋な演出だ。

16日(日)、いよいよ駅伝当日。今にも雨が降りそうな空模様で、事実午後に向け時雨があるようだが、風もなくそれほど冷え込んでもいない。雨がひどくならなければ走りやすいコンディションだろうと感じた。

さて神大の前評判はというと、定番となったOBの矢野さんの分析によると、11~16位グループくらいで、ひよつとすると10位も夢ではない、というところ。朝、甲南の小川監督にお会いしたが、「予選会での1万mのタイムからしても甲南大、兵庫県立大、神戸大が同じグループで競るのでは」と言われていた(「でも負けませんよ」と)。

全体では、全日本大学駅伝で関東勢を相手にして大健闘した(12位)立命館大が頭二つくらい抜けていて、関学、京産が第2グループという評価。立命の優勝は動かないとして他がどれだけ食らいつくかに関心移っているほど今年の立命は強い。

(1区)

スタートは7時45分と早い。7時には海岸沿いのスタート地点についたが、1区の藤田(M2、豊岡)が軽やかに、しかし気合の入った顔でアップをしていた。4年前の大会では彼は3年だったが、1区で6位となりその勢いでチームを9位に導いたのは記憶に新しい。まさに今回の佛教大のパターンだ。1区は当時は7.9kmだが3年前から9.0kmに延長されより重要度が増し、ここで流れを作ろうと各校のエース格がひしめく区間になっている。我々は1km地点に陣取って応援するわけだが、ここからならピストルの音も聞こえる。果たしてパーンと音が聞こえた。それから2分50秒を切って立命を先頭とする集団が駆け抜ける。藤田はこの時点で先頭グループ十数校から2~3m離れているのが気になった。藤田の売りは高性能のペースセンサーを備えているところ。だから試合で大崩れしない。後で聞いたら相当速く若干ヤバイと感じた由。先頭の立命は区間新だったので例年よりペースが速かったのは間違いない。藤田は区間順位は17位と振るわなかったが、記録は昨年神大の1区より1分速いし、前の数校とは30秒以内で持ってきており決してブレーキではない。1区の重責を立派にこなしたのは流石というところだ。

(2区)

2区(7.7km)の応援ポイントは3.6km地点。急坂の途中で早くもばてている選手もいる。16位で矢田(3年、市西宮)が見えた。一人抜いている。応援に反応するなどまだまだ元気いっぱい。2区は7.7kmと短い流れを作る重要なつなぎの区間。矢田は区間14位。好走だ。レースは立命が早くも大差をつけ独走状態になっている。1、2区とも区間新とのこと。

(3区)

3区と4区はこの2区間の引継ぎポイントの前後でしか応援できない。早くから応援地点に行ったが、立命が更に大差をつけ独走している。2位グループがなかなか来ない。それからバラバラと各校が通り過ぎるが待てど暮らせど神大が来ない。なんと19位でやっと田上(2年、兵庫)の姿が見えた。3人抜かれで、しかも前とも200mは開いている。すぐ後ろはなんと(失礼ながら)市大だ。田上は想定より1分以上遅く区間21位に終わった。昨年は1年で2区を走って20位。今年は捲土重来を期していたはずだが叶わなかった。3区は7.0kmと最短区間でしかも下り基調。スピードランナーが多く走る。競っていたので最初に足を使ってしまったのかも知れない。田上は長距離タイプらしいのでこの区間に脚質が合っていたのかどうか？それとも単なるブレーキなのか？いずれにせよ田上は高校時代5000mを15分15秒で走っている逸材。来年はパトリダーにもなるとのこと。自分のこと、チームのこと、勉強することは山ほどある。来年は是非リベンジを頼む。しかしここで神大はシード権をめぐるレースから取り残された格好となった。どう立て直すか？根本(4年、磐城)へかかる期待は大きい。

(4区)

4区(9.8km)で根本は何とか一人抜いたが、この好コンディションにも関わらず、タイムは昨年より20秒悪く区間18位。レース後は落ち込んでいた。どうもペースがつかめない、乗って行けないレースだったらしい。彼は理学部の惑星学科から商社へ進む面白い若者だが、夏に1か月研究航海で船に乗っていた。甲板でジョグははしたらしいが……。帰国後練習を再開しある程度まで追い込んだが、その疲れなどが直前に出ていたらしい。如何にも学生らしいエピソードではないか。しかし、そういう選手が正選手になれるということ自体、神大の層が薄い証拠でもあるのだが……。3区でのブレーキを4区で立て直したかったが上手くいかず、5区以降の巻き返しに期待するしかない展開になり、応援する側にも重苦しい雰囲気が流れ始めた。

(5区)

レースも4区で半分過ぎ、5区に期待の佐久間(4年、南多摩中等教育)登場。10km地点の農家で待つ。ここが一番応援に余裕があるところで、例年は到着してからしばらくしてトップが来たものだが、クルマを降りるともう目の前を立命が走り抜けていく。スマホでのリアル実況を見ていたら(最近はこういうものがある。ほぼ先頭と中継点しか映らないが順位変動はわかる)立命は何と4区まですべて区間新で来ているらしい。早く来るはずだ。立命恐るべし。

佐久間が見えた。5区は12.2kmと最初の長距離区間でエース区間。10kmを走ってきた割には体が切れているし足が伸びている。佐久間は4年前の9位入賞の際はまだ1年、しかし高校時代に14分47秒で走っている逸材。あの駅伝は、受験ダメージ

から回復した最初のレースだったかも知れない。6区の坂元とエース区間の5,6区を区間6,7位で走破。藤田の貯金が目減りした展開を強気にテコ入れし9位入賞した立役者の一人だった。医学部なので練習時間の確保もままならないようだが、その時の状態に戻ってきており、何よりレース感のいいランナーのようだ。タイムは前回より20秒、4年前の区間6位のときの記録より1分20秒も速く、一人を抜き17位に上がった。前とも詰まったが区間順位は11位に留まる。しかしエース区間での区間11位は立派。反撃の狼煙は確実に上がった。

(6区)

6区は13.3kmの最長区間。応援ポイントは7.8km地点で残りはまだ5.5kmもある。平坦な街道沿いで応援しやすい。

6区は最近エースを配する学校も多くなった。神大は若江(2年、泉陽)。彼は元々は競歩選手という変わり種だが、昨年も走っておりエース格に成長してきたため抜擢された。若江が見えた。他校と競っているが足取りはしっかりしている。いい目つきで前方を見据えている。区間順位は16位だが、更に一人抜き17位から16位に上がった。タイムも昨年の平井より20秒速い。好走したがやはり6区はエース区間で他校も強いということだ。先行されていた甲南大と兵庫県立大がこの区間で大きく遅れた。

(7区)

7区(13.3km)の応援ポイントは最後の急坂の途中にある。6区と並んでこの区間も長い。13.3kmの残り600mの地点だ。街道から六甲山のドライブウェイ並みの急坂が数百m続く。坂の頂上を越すと今度は急な下りを400m、最後の力を振り絞ったら8区への中継地点だ。見ていると本当にへろへろになって登って来るランナーとまだしっかり駆け上がって来るランナーの差が激しい。街道からなら中継点まで1kmくらいだろうが、この1kmであつという間に30秒以上違ってくる。この駅伝は本当に自在脚とスタミナが必要でトラックのスピードだけでは対応できない。この区間からは神大も繰り上げにかかっている。その中で松井が上がってきた。絶好調の呼び声どおり期待に違わず、次々と上がって来るランナーの中では一番元気がいい。実は松井はもともとスピードもあるようだ。たまたま近国体の1500m決勝をYouTubeで見たが、スタート直後から35℃の炎天下の中をトップで引っ張り、さすがに最後には2人抜かれたが堂々の3位。タイムも4分ちょうどだった。これを見てコンディションとレース展開次第では3分55秒くらいで走れるのでは、と思った次第。来年の関西インカレが楽しみな選手だが、やはり前で勝負する、という姿勢が彼を成長させているのだろう。切れ切れの松井が通過していった。上位8校以外は全部繰り上げだったが、その13校の中で3位で通過していったようだ。結果松井は区間11位と好走、順位も2人抜いて16位から14位へと押し上げた。天晴れ!

(8区)

最終8区は11.7km。わりと平坦で最後は天橋立の松並木の砂洲の中を走る。それを抜けると宮津市の商店街のゴールに飛び込む。大勢の人が応援してくれる晴れやかなゴール地点だ。前を抜いたりしてここを走れば最高だ。ゴール地点に着くのと立命がゴールに飛び込むのが同時だった。2位が来ない。5分経ち7分経ち、まだ来ない。凄い大差がついている模様。10分経ってやっと関学が、やや遅れて京産が見えた。立命は昨年の大会記録を8分更新する4時間8分20秒の大幅な大会新。なんと5区を除く7区間で区間新だったそう。全日本での活躍も頷ける。さてそのうち上位校に混じって繰り上げのトップが帰ってきた。平井は相当上位だ。走り終わって言葉を交わしたがかなりの達成感を滲ませていた。平井は2年上の坂元の後を継ぎ立派な駅伝エースに成長した。この1年独特の忍者走りにさらに磨きをかけたが最後1周のスプリントでも目を見張る向上があった。区間9位は立派。唯一の区間一桁だ。神大は5区以降の頑張りで、一時は19位まで落ちた順位を14位まで挽回した。タイムも4時間33分08秒と昨年を4分以上上回ったが、順位は15位から14位とひとつ更新したにとどまり、目標だった10位とはまだ4分の差がある。4時間走って4分は微差という人もいるが素人集団ではないのでこの4分は大きいと見るべき。4分=240秒、全員が一人30秒の改善が必要。心意気としてはいいが「4分くらい直ぐ」の精神論・楽観論では向上は難しい。

表1:10位、および京大、阪大との比較:

1位の立命は参考にもならないので割愛。その代わり目標である京大、阪大を入れた。目標の10位、および京大、阪大とはどれだけ違うのか、に注目したい。

	通過記録			区間記録				
	神大	10位校	差	神大	10位校	差	京大	阪大
1区 9.0km	17 28'18"	神院 27'37"	41"	17 藤田 28'18"	神院 27'37"	41"	11 27'39"	9 27'34"
2区 7.7km	16 55'17"	近大 53'52"	1'25"	14 矢田 26'49"	近大 25'56"	53"	3 25'20"	5 25'22"
3区 7.0km	19 1°17'45"	関大 1°15'02"	2'43"	21 田上 22'38"	京大 21'23"	1'15"	10 21'23"	15 21'44"
4区 9.8km	18 1°50'56"	同大 1°46'47"	4'09"	18 根本 33'18"	仏教 31'09"	2'09"	7 30'51"	14 32'17"
5区 12.3km	17 2°29'47"	阪大 2°25'09"	4'38"	11 佐久間 38'51"	仏教 38'41"	10"	2 36'36"	8 38'12"
6区 13.3km	16 3°13'27"	仏教 3°08'09"	5'28"	16 若江 43'40"	阪大 42'03"	1'37"	7 41'33"	10 42'03"
7区 13.3km	14 3°55'55"	仏教 3°51'16"	4'39"	11 松井 42'28"	近大 42'21"	7"	6 41'30"	12 42'52"
8区 11.7km	14 4°33'08"	阪大 4°29'06"	4'02"	9 平井 37'13"	大体 37'37"	△24"	12 37'44"	17 39'02"

表2 前後半のタイム比較:

次に4区(4区間 33.5km)までを前半、5区(4区間 50.6km)以降を後半としタイム分布を見てみる。各校の戦略と選手配置が読み取れるし、神大の課題も読み取れる。

総合記録			前半		後半		総合記録			前半		後半	
1	立命	4°08'20"	①	1°39'49"	①	2°31'29"	9	佛教	4°28'26"	⑦	1°45'38"	⑪	2°42'48"
2	関学	4°18'34"	⑤	1°44'14"	②	2°34'19"	10	阪大	4°29'06"	⑩	1°46'57"	⑨	2°42'09"
3	京産	4°18'44"	②	1°42'18"	④	2°36'26"	11	近大	4°29'25"	⑫	1°47'32"	⑬	2°42'53"
4	大経	4°19'22"	③	1°43'25"	③	2°35'57"	12	大体	4°31'24"	⑭	1°48'43"	⑫	2°42'41"
5	びわ学	4°22'03"	④	1°43'54"	⑧	2°38'07"	13	大院	4°32'11"	⑬	1°48'16"	⑭	2°43'55"
6	京大	4°22'36"	⑥	1°45'13"	⑥	2°37'23"	14	神戸	4°33'08"	⑯	1°50'58"	⑩	2°42'10"
7	関大	4°22'47"	⑧	1°46'09"	⑤	2°36'38"	15	同大	4°34'28"	⑩	1°46'47"	⑯	2°47'41"
8	龍谷	4°23'11"	⑦	1°45'41"	⑦	2°37'30"	16	甲南	4°36'17"	⑯	1°49'21"	⑮	2°46'50"

この二つの表を見てみると

1. 前後半のタイム比較から見えるもの:

神大は4区までの4区間 33.5 kmのタイム累計は1時間50分56秒で全体18位。

しかし5区以降の後半4区間 50.6 kmのタイムは2時間42分10秒で全体10位。後半はシード争いの各校と互角に渡り合っている。だから余計前半の18位が勿体なく見える。

10位の阪大とは後半は全く同じ記録だが、短い前半で4分もの差がついた。阪大の関係者は今回「速い順から並べた」と言われたらしいが、それは言い過ぎとしても相当前半に戦力を投入したのが見て取れる。それでも3,4区は15位、14位と取りこぼしている。因みに8区は神大9位、阪大が17位である。阪大は8区を犠牲にしたのでは?と思ってしまう。京大は層の厚さを生かして穴がない布陣を引いたようだ。それでも8区は12位と強くはない。こうしてみると神大の後半重視の布陣はどうだったのだろうか?どのような戦略思想があったのか?単に距離に合わせて走者を並べただけだったのだろうか?平井が区間9位で走っただけに、その総括はチームとしてきちんとしておかねばならないだろう。

2. 区間順位:

区間一桁が京大は5人、阪大は3人、神大は1人。これが実力差である。しかも京大は区間2位と3位がいる。立派としか言いようがない。ここは如何に強力なチームを作っていくかの話になる。長期的視点での目標を持つてのチームづくりにどれだけ取り組んでいるかが勝負だ。

3. 今回の区間配置:

繰り返しになるが個々の選手がどう走ったか、には触れないでおく。今回は、想像だが、10位を巡って熾烈な争いが終盤まで続き、そこでエース格の平井で10位に潜り込もうという作戦ではなかったか?取りこぼした3,4区がもう1分ずつは短縮する記録で走ってくれる、というのが前提だったのではないか?しかし好コンディションにも恵まれ、神大も4分もタイムを縮めたが各校も同様だった。5区からの後半で4つ順位を上げるのは並大抵ではないが、それを可能にしたほど後半は充実していた。ここは誉めねばならない。しかし良く言われるが、駅伝は先手必勝、あるいは前半で流れを作る。常に前で戦うべし、というのがセオリーとなっている。とくにこの駅伝は、山中の曲がりくねった道を走るのだから、あつと言う間に前の走者が見えなくなり、アップダウンの激しい山中の実質単独走を強いられる。平地の駅伝より更に前で戦うことが大事なように思えるのだが?「たら」「れば」は禁句かもしれないが、もし3区、4区を松井、平井、7区、8区を田上、根本としていたらどうなただろう?距離から見ると勿体ないとしても、脚質から見ても、戦略的にも、また見てもこっちの方が面白かったかも知れないのだが?

4. 丹後駅伝の特徴:

こうしてみると、この駅伝の距離配置は良くできている。前半(33 km)が後半(50 km)より17 km短い。

距離に合わせて走者を選ぶとなると後半型になるのだが、素直にそうすればあつという間に前と離れ走りにくくなるという面を持っている。各校が頭を悩ます所以であろう。応援は確かにしにくいかなかなか味のあるコースだと思う。

5. 駅伝総括のあり方:

来年からは、①チームづくりはどうしてきたのか?②駅伝リーダーがどういう戦略目標のもとで区間配置をしたのか?③個々の選手のピーキングは上手くいったのか?などのリーダーとしてのコメントも入れて、**現役の駅伝総括**としてほしい。OB向けの個人の感想だけでは物足りない。チームとしてどうだったのかが大事なリーダーの視点だ。

6. チーム作りへ向けて:

最後にチーム作りをどうしているか?シード権確保ならどういいう戦力が必要なのだろうか?例として5000m14分台が最低4人(1,5,6,7区)、15分一桁が2人(2区、4区)、15分30秒以内2人(3区、8区)を揃えるというような構想をもってスカウティングも含めた戦略的なチームづくりをしているかどうか?目標を立てて、どういいう戦力ならそれが可能になるのかを明確にして、例えば3年計画で部全体として戦略的にチーム作りに取り組んでほしいものだ。

以上